連載

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑩

水田を活用した「たまねぎ栽培」に挑戦

私たち三人は、本校農業経営学科で露地野菜を選択し、卒業論文に水田を活用したたまねぎ生産を共通題材に、調査研究に取り組んでいます。

今年六月の収穫に向け、昨年九月八日に全農とちぎの協力を得て、たまねぎの機械播種を行いました。その後育苗管理を続け、十一月八日に全自動定植機により定植を行いました。十アールの定植作業時間は約一時間で、機械化による省力効果を実感しました。

品種、栽植密度、定植深度、マルチの有無等の要因の影響を調べるため、三人で手分けして、生育、収量、品質を調査しています。私たちは出身高校も違いますが、地元栃木県の農業生産を支えて行きたいという夢は共通しています。そのためにも、水稲作付けの一部をより収益性の高いたまねぎへ変えていく技術を学ぶことはとても大切で有意義なことです。苗はセルの容量が小さく、すぐに水が乾いてしまうため、灌水には気を遣ったり、定植後の霜の降りた早朝の生育調査は寒い上に、凍った葉が折れてしまったりと、とても大変でしたが、よい結果が残せるよう、収穫・収量調査まで気を引き締めて頑張っていきます！

（農業経営学科・岡本隼人、柴山裕斗、半田隆博）

「日本一のトマト農家になる！」

私の家は宇都宮市で夏秋トマトを栽培している専業農家です。私は中学生の時に父親の仕事を手伝ったことをきっかけに農業に興味を持ちました。土まみれでトラクターを自分の体の一部のように使いこなしている父親が、とてもかっこよく思えました。その日以降、休日は手伝いをするようになり、少しずつ農業が好きになっていきました。

高校は迷うことなく農業高校への進学を決めました。高校では野菜を専攻し、トマトを定植から収穫まで一通り学ぶことができました。ある程度トマトに関することは学びましたが、まだまだ何かが足りないと思い悩んでいたところ、担任の先生に「もっと学びたいなら農業大学校に行ったらいいんじゃない？」と背中をおされ、農業大学校に入学しました。

農業大学校では、我が家でも栽培している「桃太郎ＣＦはるか」、「麗容」、「桃太郎ピース」を高軒高ハウスに植え付け、品質調査や生育調査を行い、将来就農したときの品種選定に役立つよう、品種比較の課題に取り組んでいます。「桃太郎ＣＦはるか」は一つ一つの果実が大きくしっかりとした味があり、「麗容」は果実の大きさは普通ですが安定した収量が得られ、「桃太郎ピース」は収量が多く黄化葉巻病に抵抗性があるなど、どの品種にも魅力があり、日々調査をして得たデータがどのような結果を示してくれるかとても楽しみです。この品種調査を通してそれぞれの長所・短所についても学び、どんな時期や気候にも負けずにトマトが作れる日本一のトマト農家になるのが私の夢です。

（園芸経営学科野菜専攻　齋藤　倫）

農業大学校ホームページ
http://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html